



2021.5.9

ニリンソウ自生地保護 活動情報

赤塚公園ニリンソウ
を守る会

編集責任：運営サポーター／
木村松夫 090-8646-9757
akatsukanironso@gmail.com



- ・ **ニリンソウを守る会の活動**
6月、7月、8月はお休み
秋の手入れ活動は9月12日(日)
10:00 大門地区観察台集合
秋の自生地観察会＋手入れ計画の相談
- ・ **赤塚公園植物観察活動 (モニタリング)**
5/17、6/7、6/14、6/21 9:00～12:00
ため池公園梅林下集合→大門まで

5/9 例会 昨秋の手入れ活動を振り返り、今年の課題を話し合いました

昨秋 2020年10月から今春 2021年2月まで、大門のニリンソウ自生地の手入れ活動を以下のことを留意しながら行ってきました。

- ① ハナウドなどの越年草、春の植物で展葉しているものは残す、
- ② シダ植物（オオハナワラビなど）は残すなど、
- ③ 残すべき植物にあらかじめマーキングしたうえで、アズマネザサは平坦地では全除伐、コクサギは残すべきところと刈り取る場所を選んでの選択的除伐、野草の枯れ残りは景観上ウバユリは残し、他はすべて刈り取ることにしました
- ④ 作業に従事したボランティアは、毎回約20名（旧保存する会から活動を継続してくれたみなさま＋現場で告示などを見て新たに参加してくれた方＋モニタリング活動から参加してくれた方＋担い手講座受講者＋エコポリスセンター関係者）など、幾重ものつながりが合わさって力が発揮できました。

また、⑤サービスセンターの協力による機械刈り導入は大いに効果がありました。

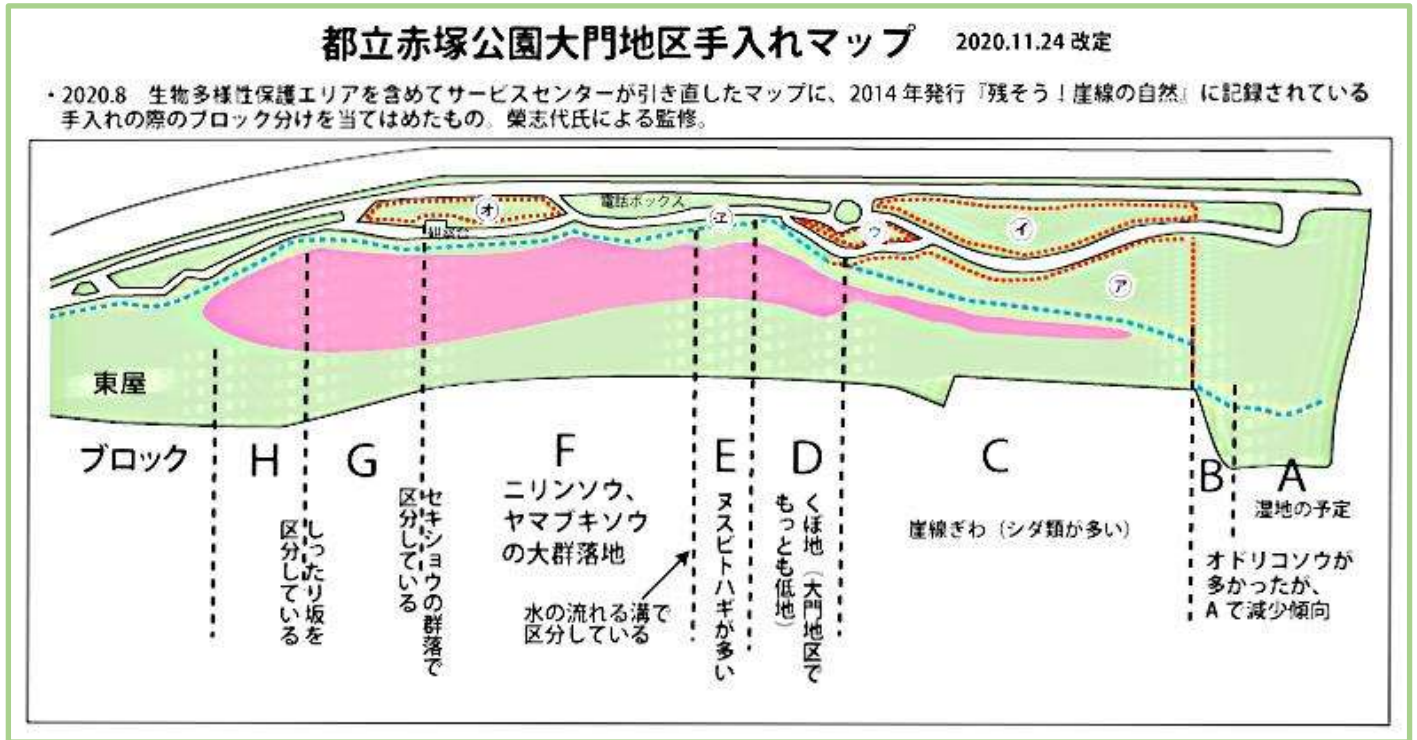


↑ 連休明け、夏の姿に変わりつつある大門ニリンソウ自生地 5/9 観察後の話し合い↓



その結果、**今年（2021年）の大門地区ではニリンソウが全域できれいに開花、ヤマブキソウとの共存もうまくいったと自己評価**しました。

5/9の例会では、初夏の様相を見せてきた自生地の植物観察を行いながら、さらに今年の秋を見据えた課題を話し合いました。



1. Aブロックの課題

40年前、この地域の開発が行われる以前のこの場所は農業用水のため池で、沖山地区南側（四葉二丁目）の谷筋とつながって地下の水脈がこのくぼ地で湧いていました。開発により水脈は断ち切られて、雨が降ると少しだけ水が溜まる状態ですが、南側の斜面が開けていたために大門地区では最も明るい場所であり、昔からオドリコソウの大群落が生きてきました。旧ニリンソウを保存する会は秋にかなり徹底した草刈りを行ってオドリコソウ群落を守ってきました。東京都の生物多様性保全事業によって湿地の回復が試みられているのですが、①水は溜まっていないうえに、②南側の私有地に建物の建築が進行中で、今後どうなるのかの予測が付きません。

<課題および対応案> 生物多様性整備工事後の2021年春はくぼ地の南側斜面（民地との境）にオドリコソウ群落が生きていますが、全体では減少。ジュズダマは増える。ハンゲショウ、カラムシ、ヤブマオも復活しています。旧保存する会の行っていた草刈りの再開を機械刈りで行い、民地建物完成後の推移を見守ることとします。

2. B、Cブロックの課題

2020年センターによる機械刈りを試行した最初の場所。2021年春はBブロックでオドリコソウ

が広い範囲で展開、ハナウド、ニリンソウも生育域拡大。

ロープ柵内の生物多様性保護エリア(手入れマップ⑦の部分)は野草の草原になりつつあります。

<課題及び対応案>①今年もセンターに機械刈りを要請。②生物多様性保護エリアは背丈が高くなり、ほかの植物の生育を脅かすハルジオンなどを適宜抜き取る以外は、引き続き観察エリアとしています。



⑦の生物多様性エリア 2019年までは左の擬木沿いに人が歩いている道ができていました。ロープ柵を設置して1年、道の跡がかすかに残っていますが野草の展開が見られます

3. Dブロックの課題

大門地区ではいちばんの低地で大雨が降ると水が溜まる湿り気が多い場所です。ニリンソウが連続して白い絨毯をつくる最も東側の端です。

2020年はセンターによる機械刈りを試行し、シダ植物、早期開花のニリンソウやこのエリアで増えてきたイヌショウマは残すなど、注意しながら作業しました。2月にはヤエムグラを手作業で抜き取りました。成果が表れて2021年のニリンソウ開花時はきれいに白い絨毯がつながりました。



<課題及び対応案>くぼ地中央に張り出したシロダモの枝が日陰をつくっていて、その下ではヤエムグラが目立っていました(上の写真の黄色と赤丸)。シロダモの枝はそのまま残すべきだという意見もあります。となると、ヤエムグラ対策を強化するべきか? 要検討課題です。地表を覆ってしまう植物にはヤエムグラのほか、平坦部分から擬木下まで広がっているアケビが目立ちますが、これも要検討課題です。

5/9の話し合いでは崖際のシラカシ、シロダモを軽く剪定したらどうかとの意見が出されました。また、シダ類が繁殖しすぎではないかとの意見がありました。シダ類はその場所に湿り気があることの証です。この場所には貴重なシダ類がたくさんあるので、基本的には保存。でも、たくさん生えているベニシダは少し刈り取ってもよいのではという意見がありました。要検討課題です。

4. E、Fブロックの課題



ニリンソウのメインステージです。ニリンソウが盛りを迎えたとき、入れ替わるようにヤマブキソウが咲き始めます。2020年の手入はすべて手刈りで行いました。

ハナウド、イヌシヨウマ、オオハナフラビやセキシヨウなどに注意して、残すべき植物にマークを付け、さらにウバユリの枯れ姿も残すなど選択的に草刈りを行いました。

<課題及び対応案>①ニリンソウの展葉前にはメインステージの崖際のキチジョウソウが目立っていて、それがニリンソウとヤマブキソウの生育を妨げるのではないかと心配されたのですが、開花期にはキチジョウソウが見えないほどにニリンソウとヤマブキソウが展開していました。それでも、2021年はキチジョウソウをある

程度抜き取ることにしました。(左写真の黄色マーク部分)

②大門地区の全域で、ウバユリの枯れ姿は冬から早春の林の風情を保つためにあえて刈り取らずに残していますが、ニリンソウがいちばん映えるメインステージの手前では除去してもよいのではとの意見が上がりました。

③擬木を後退させた生物多様性保護エリアではヤエムグラも目立ち、ほかの植物を隠してしまう(とくにタカオスミレが咲く場所)ので、来年はその抜き取りにも力を入れることになりました。フラサバソウは他の植物と共存可能と思えました。

④ロープで囲った生物多様性保護エリア(㊦の部分)には2021年はタチツボスミレのほかツボスミレなどの野草が多数展開していました。ハルジオンなどの林縁植物でない種の抜き取りを適宜行いながら、引き続き観察していきます。

5. G、Hブロックの課題

2020年はすべて手刈りで行いました。

<課題及び対応案>①G、Hブロックと同様に事前に残すべき野草にマークを付けて作業を行います。②観察台近くのヤブニンジンが生えすぎの感があり、葉の展開期に全部除去は難しくとも抜き取りをすることしました。③しつたり坂近くのホウチャクソウ斜面のヤブニンジンも可能な限り除去することが望ましいとの意見が出されました。④いちばん西端の小橋の下のアケビも同様です。

6. その他の課題

①手入れマップのブロックを現場で分かりやすくするために、擬木にマークを付けたらどうか、②全域でヤブタバコが繁殖しすぎ、枯れあとは取り除いた方がよいとの意見が上がりました。

新型コロナウイルスのワクチンの接種が始まりましたが、多くの人々が接種を完了するにはまだまだ時間がかかりそうです。6～8月は「コロナワクチン接種奨励期間」としてニリンソウを守る会の活動はお休みにします。